



2018年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2018年8月3日

上場会社名 株式会社ダイナックホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 2675 URL https://www.dynac.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 若杉 和正
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 (氏名) 及川 直昭 TEL 03-3341-4216
 四半期報告書提出予定日 2018年8月13日 配当支払開始予定日 2018年9月18日
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2018年12月期第2四半期の業績 (2018年1月1日～2018年6月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年12月期第2四半期	17,330	△0.3	△136	—	48	△66.2	△98	—
2017年12月期第2四半期	17,383	△0.0	147	△8.3	143	△9.9	126	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2018年12月期第2四半期	△14.00	—
2017年12月期第2四半期	17.99	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2018年12月期第2四半期	14,067	4,315	30.7
2017年12月期	14,056	4,457	31.7

(参考) 自己資本 2018年12月期第2四半期 4,315百万円 2017年12月期 4,457百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年12月期	—	6.00	—	6.00	12.00
2018年12月期	—	6.00	—	—	—
2018年12月期 (予想)	—	—	—	6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2018年12月期の業績予想 (2018年1月1日～2018年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

2. 当社は2018年12月期第3四半期から持株会社体制移行に伴う連結財務諸表作成会社となるため、2018年12月期通期の個別業績予想の公表を控えさせていただきます。なお、2018年12月通期の業績につきましては、2018年7月27日公表の「2018年12月期第2四半期累計期間の個別業績予想の修正及び通期の連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2018年12月期 2Q	7,033,000株	2017年12月期	7,033,000株
② 期末自己株式数	2018年12月期 2Q	254株	2017年12月期	254株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2018年12月期 2Q	7,032,746株	2017年12月期 2Q	7,032,746株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算短信説明会内容の入手方法）

当社は、2018年8月9日（木）に機関投資家及びアナリスト向け説明会を開催する予定です。
その説明会の資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載予定です。

（日付の表示方法の変更）

「2018年12月期 第2四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、基調としては緩やかな回復を続けており、企業収益は当面底堅く推移する見込みであるものの、海外の政治・経済動向に不透明感が残るなど、先行き不安定な状況が続いております。

外食業界におきましても、個人の消費マインドは緩やかな回復傾向にあるものの、依然として根強い消費者の節約志向の中、人手不足を背景にした人件費の上昇、原材料価格の高止まり、天候不順の影響等により、経営環境は一層厳しさを増しております。

このような状況の下、当社は「お客様の感動満足」を起点とした更なる会社の成長の実現に向け、高付加価値業態の更なる開発・展開、既存業態についてはリ・ブランディングを着実に進めるなど、当社事業の強みを活かした収益基盤の強化に取り組むとともに、食に対する安全・安心の追求及びお客様に最高の商品・サービス・環境をご提供できる店づくりを心がけてまいりました。

当第2四半期累計期間におきましては、鉄板料理を中心としたコース和食とソムリエ厳選の豊富なワインセレクションが醍醐味の「萬鉄（ばんてつ）」を皮切りに、日本全国から厳選した地酒と産地直送の魚介や季節の食材が堪能できる大人の酒場「コトブキ」、イタリアンなモツ料理とワインを楽しむイタリア大衆ワイン酒場「モツード」、オトナ女性のためのイタリアンダイニング「レ・アミーケ」の4ブランドを新たに開発し、新規に3店舗を出店するとともに、既存の3店舗を業態変更しました。上記に加えて、最高品質ハイボールにこだわった「ハイボールバー 東京駅 1923」、こだわりの超炭酸ハイボールが飲める駅ナカBAR「HIGHBALL'Sなんば」など、ゴルフ場レストランを含め10店舗を新規に出店し、また、既存店舗についても「ポルチェリーノ」「虎連坊」などへの業態変更を着実に進める一方で10店舗を閉店し、当第2四半期会計期間末の店舗数は257店舗（業務運営受託店舗6店除く）となりました。

当第2四半期累計期間における業績につきましては、売上高は、各種売上向上策や創業60周年記念キャンペーンなど様々な販売促進活動を行ったものの、天候不順の影響等もあり、17,330百万円（前年同期比0.3%減）となりました。

経常利益は、採用難による人件費の増加や、売上高の減少による影響等に加えて、前年を上回る積極的な新規出店や業態変更を実施した一方で、店舗の改装等に伴う営業補償金の受入もあり、48百万円（前年同期比66.2%減）となりました。四半期純損失は、業態変更に伴う固定資産の除却損に加えて、一部店舗の減損損失を計上した結果、98百万円（前年同期は四半期純利益126百万円）となりました。

当該事業の形態別業績は以下のとおりです。

レストラン・バーの売上高は15,555百万円（前年同期比0.6%減）、売上総利益は1,762百万円（前年同期比7.4%減）となりました。

ケータリングの売上高は572百万円（前年同期比10.7%増）、売上総利益は49百万円（前年同期比6.5%減）となりました。

その他の売上高は1,201百万円（前年同期比1.3%減）、売上総利益は184百万円（前年同期比3.8%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期会計期間末における総資産は14,067百万円となり、前事業年度末と比べ10百万円の増加となりました。その主な増減内容につきましては、以下のとおりです。

流動資産は、前事業年度末と比べ418百万円の減少となりました。これは主に売掛金が262百万円、現金及び預金が132百万円、原材料及び貯蔵品が40百万円それぞれ減少したことによるものです。

固定資産は、前事業年度末と比べ429百万円の増加となりました。これは主に、建物が286百万円、工具、器具及び備品（固定資産「その他」）が100百万円、敷金及び保証金が45百万円それぞれ増加したことによるものです。

負債は、前事業年度末と比べ152百万円の増加となりました。これは主に借入金が505百万円、未払金（流動負債「その他」）が483百万円それぞれ増加した一方で、未払法人税等が280百万円、未払費用が248百万円、買掛金が188百万円、未払消費税等（流動負債「その他」）が106百万円それぞれ減少したことによるものです。

純資産は、前事業年度末と比べ141百万円の減少となりました。これは主に利益剰余金が140百万円減少したことによるものです。

この結果、自己資本比率は前事業年度末より1.0ポイント減少の30.7%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前事業年度末に比べ132百万円減少の551百万円となりました。

なお、各キャッシュ・フローの状況につきましては、以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、94百万円(前年同期は937百万円の資金使用)となりました。これは主に税引前四半期純損失71百万円、減価償却費395百万円、売上債権の減少262百万円、仕入債務の減少188百万円、未払費用の減少248百万円、法人税等の支払258百万円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、500百万円(前年同期は726百万円の資金使用)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出375百万円、敷金及び保証金の差入による支出100百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、462百万円(前年同期は1,507百万円の資金獲得)となりました。これは主に借入金の収入と返済による資金収支505百万円、配当金の支払額42百万円によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想については、2018年7月27日の「2018年12月期第2四半期累計期間の個別業績予想の修正及び通期の連結業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました第2四半期累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2017年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2018年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	684,083	551,502
売掛金	2,181,315	1,918,450
商品	60,847	44,656
原材料及び貯蔵品	227,409	187,169
その他	821,637	857,019
貸倒引当金	△26,000	△28,000
流動資産合計	3,949,293	3,530,798
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,897,637	4,184,181
その他（純額）	679,633	814,282
有形固定資産合計	4,577,271	4,998,464
無形固定資産	219,243	201,346
投資その他の資産		
敷金及び保証金	4,550,824	4,596,376
その他	1,003,260	974,232
貸倒引当金	△243,582	△234,142
投資その他の資産合計	5,310,502	5,336,466
固定資産合計	10,107,017	10,536,277
資産合計	14,056,310	14,067,075

(単位：千円)

	前事業年度 (2017年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2018年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,514,501	2,325,846
短期借入金	902,500	1,450,000
1年内返済予定の長期借入金	85,000	85,000
未払法人税等	424,048	143,907
未払費用	2,283,698	2,035,241
役員賞与引当金	17,890	15,183
資産除去債務	68,478	18,164
その他	971,986	1,331,936
流動負債合計	7,268,102	7,405,279
固定負債		
長期借入金	257,500	215,000
退職給付引当金	1,265,325	1,306,814
資産除去債務	749,616	765,691
その他	58,717	58,649
固定負債合計	2,331,158	2,346,155
負債合計	9,599,261	9,751,434
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,741,625	1,741,625
資本剰余金	965,175	965,175
利益剰余金	1,737,379	1,596,697
自己株式	△331	△331
株主資本合計	4,443,848	4,303,166
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	13,201	12,474
評価・換算差額等合計	13,201	12,474
純資産合計	4,457,049	4,315,640
負債純資産合計	14,056,310	14,067,075

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)
売上高	17,383,156	17,330,276
売上原価	15,235,834	15,334,143
売上総利益	2,147,321	1,996,133
販売費及び一般管理費	1,999,354	2,132,296
営業利益又は営業損失(△)	147,967	△136,163
営業外収益		
受取利息	541	551
受取配当金	206	221
受取補償金	—	181,761
その他	2,041	8,613
営業外収益合計	2,789	191,148
営業外費用		
支払利息	4,517	3,776
その他	2,279	2,485
営業外費用合計	6,797	6,262
経常利益	143,959	48,721
特別利益		
事業譲渡益	104,259	—
特別利益合計	104,259	—
特別損失		
固定資産除却損	19,090	70,347
減損損失	—	47,989
店舗等撤退損失	6,188	1,737
特別損失合計	25,278	120,073
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	222,940	△71,352
法人税、住民税及び事業税	60,367	32,059
法人税等調整額	36,039	△4,925
法人税等合計	96,406	27,133
四半期純利益又は四半期純損失(△)	126,533	△98,485

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	222,940	△71,352
減価償却費	374,063	395,309
固定資産除却損	19,090	70,347
減損損失	—	47,989
店舗等撤退損失	6,188	1,737
事業譲渡益	△104,259	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△199	△7,440
受取利息及び受取配当金	△747	△773
支払利息	4,517	3,776
売上債権の増減額 (△は増加)	306,184	262,864
たな卸資産の増減額 (△は増加)	54,051	56,432
仕入債務の増減額 (△は減少)	△838,294	△188,655
未払費用の増減額 (△は減少)	△546,638	△248,303
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△85,713	△106,573
その他	△25,451	△48,511
小計	△614,269	166,847
利息及び配当金の受取額	747	773
利息の支払額	△4,700	△3,929
法人税等の支払額	△318,864	△258,513
営業活動によるキャッシュ・フロー	△937,085	△94,821
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△988,855	△375,607
敷金及び保証金の差入による支出	△16,088	△100,095
敷金及び保証金の回収による収入	118,581	41,405
店舗等撤退による支出	△33,304	△46,976
事業譲渡による収入	209,169	—
その他	△15,646	△19,472
投資活動によるキャッシュ・フロー	△726,142	△500,747
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,727,500	547,500
長期借入金の返済による支出	△177,500	△42,500
配当金の支払額	△42,024	△42,011
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,507,975	462,988
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△155,253	△132,580
現金及び現金同等物の期首残高	654,475	684,083
現金及び現金同等物の四半期末残高	499,221	551,502

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。